

壮麗なスペクタクルで演じられた日中合作バレエ。
その裏側に込められた日中友好のメッセージ。



「鵲の橋」メインシーン

2007年は日中国交正常化35周年の年であった。これを記念して日中合作バレエ「鵲(かささぎ)の橋」が上海で公演された。これは「2007日中文化・スポーツ交流年」の重要イベントである。日本と中国から一流のスタッフと踊り手を集め、ハイテクを駆使したその舞台は、バレエ文化が成熟しつつある中国で大好評を博した。

日本と中国双方に伝わる「七夕伝説」が上質のバレエ作品として光を放つ。

中国の昔話として伝わる「鵲の橋」、日本では「七夕伝説」として知られている物語だが、今回はその物語を元にシナリオが作られた。「天帝と王母、そして7人の天女が住む『天上界』と人々が暮らす『地上界』に分かれている。天女の一人である織女と、村に住む牛郎(牽牛)が結ばれ地上界で暮らすようになるが、それに怒った天帝が派遣した王母の魔法によって天の川ができ、二人を隔

ててしまう。そこへ宇宙を支配する鳳凰の命を受けた無数の鵲が連なって、天の川に橋を架けて二人を救う」という荘厳な物語になったのである。

この物語をバレエに仕立てたのが、日中合作バレエ「鵲の橋」である。豪華絢爛な天上界、満点の星々、天の川、王鏡という時空を超えるトンネルなどなど、ファンタジックな舞台設定と、息をつかせぬストーリー展開が相まって、ファンならずとも引き込まれてしまう



世界的アーティストの丁紹光氏が作品のために書き起こしたイラスト

上質の作品に仕上がった。このバレエ用の台本を手がけたのは日中合作バレエ「鵲の橋」実行委員会の代表、中

江要介氏だ。中江氏は中国、ユーゴスラビア、エジプトなどの特命全権大使を務めた外交官である。

台本を手がけた時の気持ちの中江氏は次のように述べている。

「日本と中国は引越すことのできない隣国です。日中両国には未来永劫アジアのこの場所で平和と繁栄を求めて手を携えて努力する以外の道はないのです」

しかし実際には、日中友好を阻害しようとする人々や障害も存在する。それなら、「自分たちが鵲となって、日中友好の橋を架けたい」というのが台本づくりの動機だったという。つまり「鵲の橋」は、単に日中両国の共通の伝説を元にしたというだけではなく、国際間の友好を深めたいという中江氏ならではの願いがこもった作品なのである。

実は「鵲の橋」は、1998年、日中国交正常化20周年の時に初演されている。中江氏はこの作品で有名な作家となり、その後、東京、ザグレブ、サラエボ、カイロなどで作品を発表し、多くのバレエファンを引きつけた。そのため、中江氏は「文化大使」、「バレエ外交官」とも讃えられている。

日中のダンサーとスタッフの思いがひとつになり、閉幕式を飾る作品に仕上がった。

ところで今回の公演は、「2007日中文化・スポーツ交流年」の中国上海国際芸術祭の重要イベントでもあるため、これまでとは幕数や構成、演出をまったく変えた新しいバージョンになっている。舞台装置や音楽、衣裳も大幅に見直され、踊り手も一新した。

主役の織女は、上海出身でサンフランシスコバレエ団で活躍するヤンヤン・タンとNBA（日本バレエアカデミー）バ



主役の一人、ヤンヤン・タンは「TIME」でも大きく紹介された

レエ団の原嶋里会が務めた。他も全て日本のNBAと中国の上海青年舞踊団の共演で脇を固めている。特にヤンヤン・タンはアジアのヒロインとして米国TIME誌の表紙も飾ったことのあるトップスターで、公演の目玉にもなった。

さらに、総合プロデューサーに日本のテレビ各局で活躍した呉民民氏、振付に執行伸宜氏を始め、音楽、衣裳、美術などを日中混合の優秀なスタッフが支えた。

それでも本番までは難題も多かった。例えば、織女の姉妹たちを日本のダンサー、天の兵を中国のダンサーが務め、それぞれ自国でレッスンをし、本番前に合わせていくのだ。言葉は使わない踊りとはいえ、難しい作業であったと呉民民氏は語っている。

しかし、一人ひとりが「鵲」になろうという意識が最後にはみんなに伝わり、舞台は大成功を収め、国際芸術祭の全てのイベントの中から、閉幕式の最終演目に選ばれている。舞踊界からの反響も大きく、さまざまな国や地域から上演依頼が集まってきている。

●担当者より

AJOSCの皆さんの志が中国にも伝わったことをお知らせします。



AJOSCの皆様のおかげで、中国でたいへん友好的な舞台を公演できたことをお知らせします。場所が中国だったとはいえ、今回は仕掛けも大きく、スタッフも370人もいましたから、全体のコストがとてかかりました。人件費や衣裳代などは現金でないとやりとりができませんから、その点でたいへん役立ちました。機会があれば日本でも「鵲の橋」を開催したいと思っています。その際にはぜひ、ご高覧ください。

日中合作バレエ「鵲の橋」実行委員会 呉民民さん